

## 平成 4、5 年度コロキウム発表要旨

平成 4 年度第 4 回 2 月 15 日

演題：学生の健康と生活に関する調査—その 3—

演者：西田 保（体育科学部）

本センターの総合プロジェクト研究の 1 つに、「学生の健康と生活に関する調査」研究がある。この研究は、1982 年度から開始されたもので、学生の健康状態や生活状況を総合的に把握することによって、健康な学生生活のための教育や指導に役立てることを目的としている。調査は、毎年秋に 1 年生を対象に実施されており、その内容は、定期健康診断や体力テストの結果に始まり、生活状況、スポーツ活動など広範囲にわたっている。

総合プロジェクト研究の報告は、これまでのコロキウムの中で 2 回行われてきた。1 回目は、学生の生活とスポーツ活動に焦点がおかれた報告（演者：中島豊雄教授）であり、2 回目は、健康状況を主とした報告（演者：大澤功助手）であった。いずれも貴重な内容であったが、単年度の報告であった。

そこで、今回のコロキウムでは、この研究が始まった 1982 年度のデータと最近（1991 年度）のデータとを比較したものを発表することになった。報告した内容は、体格（身長、体重、胸囲、座高）、体力テスト（サイドステップ、垂直跳び、伏臥上体そらし、立位体前屈、握力、背筋力、踏台昇降運動）、健康状態と満足度、健康問題への関心、健康診断の必要性および参加意識、体力テストの必要性や参加意識、運動クラブの必要性、体育実技の必要性、体力の自己評価および満足度、体力への自信、スポーツ実施の興味、日頃の勉強時間、体育授業での学習意欲などであった。対象者は、1982 年度が、男子 651 名、女子 168 名であり、1991 年度は、男子 1668 名、女子 436 名であった。

これらの内容は、全て図表によって紹介した。9 年間の比較で得られた結果の主なものを記述すると、以下のものであった。

1. 体格や体力テストの値は、全体的に上昇したが、柔軟性（上体そらし、立位体前屈）の値は下降した。
2. 健康状態が「良い」とか現在の健康に「満足している」という回答が多くなった。しかし、健康問題への関心が薄れ、健康診断の必要性や参加意識は低下した。
3. 「体力がない」「体力に不満足」と応答する学生が、1991 年には過半数を越えた。
4. 体育実技の必要性やスポーツ実施の興味は、依然として高い値であった。
5. 日頃の勉強時間は、9 年前よりもかなり少なくなった。
6. 体育の学習意欲は、男子は高くなったが、女子は低くなった。

なお、今回報告した内容の 1 部が、中日新聞朝刊（1993 年 3 月 21 日）に掲載されたことを付け加えておきたい。

